中国観音霊場会 観音だより

観音ラブレター　No.50

中国観音霊場　開創30周年
観音だより50号特別号

●編集・発行　中国観音霊場会青年部
〒755-0067　山口県宇部市小串210　宗隣寺内
TEL 0836-21-1087　FAX 0836-21-1137

中国観音霊場 開創30周年記念 合同法要 平成23年9月17日　亀甲山 多陀寺

中国観音霊場会 開創三十周年を迎えて

中国地方の由緒寺院が集い、中国観音霊場会が創設されて三十周年を迎えることとなりました。当霊場会は、関係各位のご尽力によりたくさんの方が巡拝される立派な霊場寺院として成り立っております。

さて、今の世の中は大人も子どもも時間に追われ「忙しい・忙しい」が口癖の毎日です。忙しいという字は心を亡くすと書きます。「心を亡くさず欲を亡くす」現在は物の時代と称されますが、物が豊かだと感謝を忘れがちになります。感謝がないと心が貧しくなります。心が貧しいと自分のことしか考えないようになってしまうのが人間であります。私たちの生活に於いて、怒り・憎しみ・恨み・妬みといったものは必ずといって心の中に生じてきます。このような心からは決してよい結果は生じてきません。身を整え、呼吸を整え、心を整えて自分自身を見つめることが大事です。おのずと失われた心が取り戻せるはずです。

今年の三月十一日、未曾有の大地震・大津波が東北地方を襲いました。日本中が悲しみに暮れ心痛める日々を今も過ごしております。被災に遭われた方々の辛い気持に寄り添いたいと、一人一人が自分には何が出来るのだろうと考え、少しずつではありますが復興に向けて歩き始めています。

禅語に「生也全機現（しょうやぜんきげん）」この世に生まれた限りには、生かされていることに感謝し、一日一日を精一杯に生きていきましょう！という言葉があります。眉間にしわを寄せて、悪口や不満や愚痴をいう毎日からは何も生まれてきません。まずは明るく清々しい気持ちで「心」を見つめなおしましょう。

慌ただしい世の中、中国観音霊場会は巡拝される皆さまの「心と体」の健康を取り戻すためのお力添えになればと願っております。

中国観音霊場会　会長　杉村五由

「中国観音　友の会」会員募集のご案内

中国観音霊場会では、皆様により親しんで戴くために「中国観音友の会」を作り、右の要項で活動して参ります。　多くの方とご縁を結ばせていただき観音信仰を深めて参りたいと思いますので、この機会にご入会いただきますようご案内申し上げます。

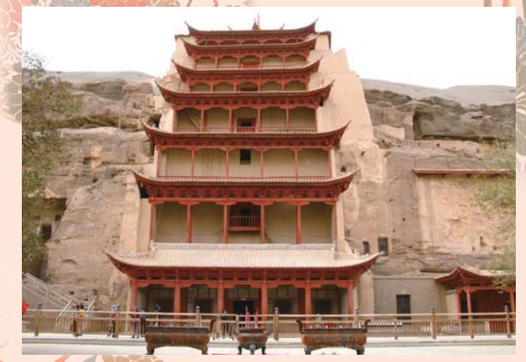
年会費▶ 2,000円
期　間▶ 1ヶ年（例）平成23年10月16日振込の場合は、平成23年11月1日から平成24年10月末までとなります。
特　典▶ ①「観音だより」を年4回ご指定の場所に郵送致します。
② 各寺院において色々な特典（記念品の進呈等）がございます。
③ 入会初年度は、中国観音霊場会発行の「ザ・観音」を進呈します。
④ 毎年秋に行われます合同法要において特別に祈願したお守札を授与致します。
⑤ 2年目以降の継続会員には、継続年数（3年、5年、7年、10年、15年、20年）により記念品を贈呈致します。

詳しいお問い合わせは　中国観音霊場会「中国観音　友の会」事務局
〒729-0471　広島県三原市高坂町許山22 佛通寺内　TEL 0848-66-3502　FAX 0848-66-2563

中国観音霊場会 第22回団参

2012年10月9日（火）～10月15日（月）　普陀山・敦煌・西安 6泊7日

旅行主催：中国観音霊場会



敦煌　莫高窟

早期お申込み特別価格

早期割引申込締切　2012年7月9日（月）まで

22万円

※燃油税・空港税等は別料金となります
※7月10日以降のお申込みは23万円となります
詳しくはお問い合わせください

中国観音霊場会開創30年を迎え、毎年の普陀山への団参も今回で22回を迎えます。
観音聖地普陀山へのお参りはもとより、今回は、シルクロードの要衝として栄えた砂漠のオアシス都市、敦煌。西域からシルクロードを東へたどった仏教が中国美術と融合して大きく花開いた莫高窟と楡林窟を中心に敦煌の文化遺産をめぐります。
今年は特別記念価格と致しまして、22万円でご提供。お誘いあわせの上、ぜひお参りください。

西安　兵馬俑

- 出 発 日　2012年10月9日（火）
- 出発空港　福岡・岡山・広島、他
- 訪問都市　中国普陀山・敦煌・西安

お申込みお問い合わせ先　山口県内の各寺院または株式会社オフィス華林まで

株式会社オフィス華林　東京都知事登録旅行業第3-3919号・日本旅行業会正会員
東京都渋谷区宇田川2-1 渋谷ホームズ916号　0120-77-1135
E-mail : kalin@rondo.plala.or.jp　URL : http://www.china-kalin.com　ご不明な点はお気軽にお問い合わせくださいませ

編集後記

当霊場会30周年と、本誌50号記念として特別号として発行するにあたり、当霊場会会長、漢陽寺・杉村五由師には法務繁忙中にも関わらずご挨拶を、又、霊場会関係各位の皆様にも快くご寄稿頂き誠にありがとうございました。そして、普陀山仏教協会会長・釈　道慈師、韓国仏教文化事業団団長　知玄師にそれぞれ頂戴した祝辞を掲載させて頂くにあたり、ご尽力下さった関係各所の皆様方、各県担当特別編集員の皆様方に厚く御礼申し上げます。
編集部にバックナンバーを希望される声が多数寄せられておりました。一部ですが当霊場会HPより観覧出来るようになりましたのでご参照下さい。　http://kannon.org/katsudou/03/index.htm
（編集部　宗隣寺内　山中 祐生）

33 中国三十三観音霊場会寺院

鳥取県	島根県	山口県	広島県	岡山県
第二十三番 大雲院	第二十八番 清水寺	第一十一番 観音院	第十四番 大聖院	第七番 円通寺
第二十二番 観音院	第二十七番 雲樹寺	第二十番 大照院	第十三番 三瀧寺	第六番 蓮台寺
特別霊場 摩尼寺	第二十六番 一畑寺	第十九番 功山寺	第十二番 佛通寺	第五番 法界院
第二十一番 三佛寺	第二十五番 鰐淵寺	第十八番 宗隣寺	第十一番 向上寺	第四番 木山寺
第二十番 長谷寺	第二十四番 禅定寺	第十七番 龍蔵寺	第十番 千光寺	特別霊場 誕生寺
第二十九番 大山寺	第二十三番 神門寺	第十六番 洞春寺	特別霊場 西國寺	第三番 正楽寺
	第二十二番 多陀寺	第十五番 漢陽寺	第九番 浄土寺	第二番 餘慶寺
		特別霊場 般若寺	第八番 明王院	第一番 西大寺

観音巡拝指南書「The 観音」＊観音巡拝の真の意義と魅力・霊場三十七全寺院の紹介！

中国観音霊場開創30周年事業

中国観音霊場 開創三十周年「宣言文」

中国観音霊場は、日本の中国地方五県（岡山県、広島県、山口県、島根県、鳥取県）総行程千五百キロメートル、観世音菩薩をまつる三十七か寺の名刹・古刹を結んだ「巡拝の道」である。一九八一年（昭和五十六年）に創設されて以来、本年二〇一一年（平成二十三年）、霊場開創三十周年にあたる。

人生は旅であるといわれるように、旅にもまた人生の縮図がある。願いを抱き、仏を求めて旅をする。山陰・山陽の美しい自然、風景、文化、人情に触れながら、これまで数多くの人々が、この巡拝を満願した。歩めば歩むほど、道は固まり、さらに多くの人が歩む。仏を求めるとは、自己を求めること、霊場を巡拝し、人は自己の仏性に目ざめるのである。

当霊場の特徴は、平和を祈る聖地・広島の原爆死没者慰霊碑の「平和の灯」を抱いていることである。広島の火は、昭和三十九年、十二の宗派から持ち帰った「宗教の火」と、「産業の火」をあわせて点火され、すべての核兵器が廃絶されるまで燃え続けることになっている、「平和の灯」である。三十年前、この灯の前で、中国観音霊場は平和を祈り設立されたのである。

当霊場のもう一つの特徴は、観音菩薩の聖地・中華人民共和国の普陀山との友好交流である。霊場開創十周年にあたる一九九一年（平成三年）より本格的な交流が始まり、千百数十余年の間、慧菫大師の成し遂げられなかった悲願である観音菩薩を我が国に招聘することが実現された。爾来、交流は毎年欠かされることなく継続され、観音信仰はより一層の広がりと深まりを得ている。

翻って現代の世相を観れば、毎年自殺者が三万人を越えるなど、物の豊かな日本で、心の救いを求めているのが現実である。さらに、このたびの東日本大震災は、多くの犠牲者、行方不明者、被災者を出す未曾有の大災害となった。放射能汚染という新たな問題も深刻化し、復興の道筋ははるか遠くに続いている。海外に目を転じれば、戦争、テロ、飢餓、枚挙にいとまがない。人は平和を求めながらも争いが絶えることはなく、互いに憎み合い傷つけ合う悲しい現実が続いている。

中国観音霊場開創三十周年にあたり、私たちは霊場設立の原点に立ち返り、次のことを声高らかに宣言する。

一、「慈悲心の目覚め」　国内霊場巡拝をより一層広める。
二、「世界平和の祈り」　「平和の灯」で祈りのリレーを行う。
三、「仏教のつながり」　日中韓の観音交流を深める。

観音菩薩は、仏教の核心である慈悲心を体現した仏である。観音巡拝の原点は、自己の仏性に目ざめ、生きとし生けるものの幸せを願う慈悲心の涵養とその実践である。観音信仰を広めるとは、慈悲心を抱く人々を一人でも多く育てることである。家庭に、世の中に、慈悲の心を灯してゆくことといってもよい。全ての行動の基に慈悲心をもつことができればこの世界はもっと良くなるはずである。

慈悲心に目覚め、慈悲心を涵養し、生きとし生けるものの利益の為に修行する。それが大乗菩薩道、私たち仏教者のつとめである。仏法興隆、観音信仰の普及、霊場巡拝の発展、今まで以上に人々のために施し、人々の心の平安と真の幸せを願わん。

平成二十三年九月十七日　中国観音霊場会

観音様から「生きる力をいただく旅」、それが観音巡拝の旅。

中国観音霊場会　合同大法要のあゆみ

昭和五十七年	西大寺
昭和五十八年	浄土寺
昭和五十九年	洞春寺
昭和六十年	法界院
昭和六十一年	大聖院
昭和六十二年	功山寺
昭和六十三年	鰐淵寺
平成元年	大山寺
平成二年	木山寺
平成三年	明王院
平成四年	観音院（大照院）
平成五年	神門寺（山口）
平成六年	大雲院
平成七年	蓮台寺
平成八年	千光寺
平成九年	漢陽寺
平成十年	一畑寺
平成十一年	観音院（鳥取）
平成十二年	誕生寺
平成十三年	広島 平和公園
平成十四年	龍蔵寺
平成十五年	雲樹寺
平成十六年	長谷寺
平成十七年	西國寺
平成十八年	正楽寺
平成十九年	宗隣寺
平成二十年	三瀧寺
平成二十一年	円通寺
平成二十二年	佛通寺
平成二十三年	多陀寺

中国観音霊場会事務局／〒720-0831 広島県福山市草戸町1473 第8番 明王院 内 TEL 084-951-1732　E-mail; myoh-in@spase.ocn.ne.jp

日本中国観音霊場会への祝辞

尊敬する　中国観音霊場会杉村五由会長様、中国観音霊場会全てのご住職様

日本国中国観音霊場会開創30周年を迎えられました事、普陀山仏教協会を代表し、また私の名を以て貴会に心からお祝いを申し上げるとともに、霊場会すべてのご住職様方はじめ、又式典にご参加頂いた皆様方に崇高なる敬意を表します。

30年来、貴会は観音信仰を堅く守り、伝承し、積極的に仏の道を歩んでこられました。そして、観音文化を広め、大勢の人々を病や災難から救い、幸福へと導いてこられました。

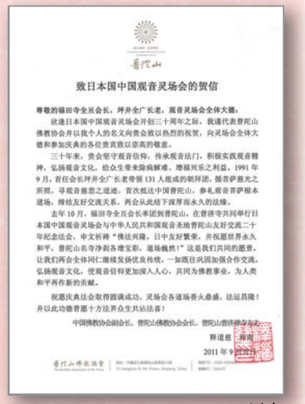
1991年9月、初代の会長を務められた坪井全広会長は、総勢131名で参拝団として訪中され、菩薩の照らす道、観音の慈悲の道筋を辿りました。初めて、中国普陀山に降り立ち、観音菩薩の原点である寺院を参拝されると同時に、双方の友好交流関係を締結し、両会はこの時から深く厚い永久の仏縁を結ぶこととなりました。

昨年10月、福田寺全亘前会長が参拝団を率いて普陀山へいらっしゃり、普済寺にて日本中国観音霊場会と中華人民共和国観音聖地普陀山の友好交流20年紀念合同法要を行いました。"佛教の興隆と日中友好の繁栄、そして世界の恒久平和。普陀山と由緒ある寺の隆盛。"これが我々の共通の願いでした。

私達両会で、この素晴らしい伝統をこれからも継承し続け、信仰がさらに深く人々の心に根付くよう、観音文化を広めていきましょう。共に力を合わせて、佛教事業の為、人類の平和の為さらに新しい貢献をしていきましょう。

式典のご成功と霊場会各寺院の繁栄を心よりお祈り申し上げます。

中国佛教協会副会長　普陀山佛教協会会長　普陀山普済禅寺住職（ふださんふさいぜん）
釈　道　慈　和南
2011年9月吉日


致日本中国观音灵场会的贺信

原文

祝　辞

今年で開創30周年を迎える中国観音霊場会の杉村会長様を始め、今日に至るまで韓・日両国仏教文化を引き続く架け橋になり、黙黙と歩いていらっしゃった日本の僧侶方々と関係者の皆様に韓国仏教係を代表して深く感謝とお祝い申し上げます。

互いに修行法は違っても仏様の教えの中ではすべての衆生が一つになるように、日本中国観音霊場とたゆまぬ交流は政治的、文化的の差を飛び越え、お互いの伝統と歴史を交わしております。

日々に両国の観音聖地交流事業が活発に発展された結果、韓・日仏教文化のパラダイムとして定着しました。

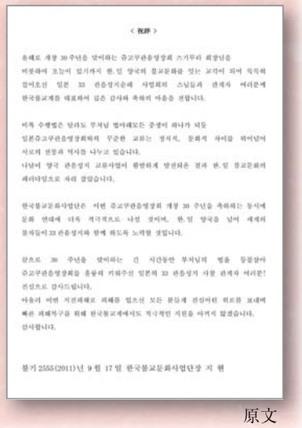
韓国仏教事業団は、この度の中国観音霊場会の開創30周年を祝うと同時に文化的連帯をもっと積極的に出し、ひいては世界の仏子たちが観音聖地と共にできる様に努力します。

終りに、30周年を迎える長い間、仏様の仏法を灯りにして中国観音霊場会を立派に育ってくださった日本の関係者の皆様！　心より深く感謝申し上げます。

また、今回の地震で被害をうけた皆様に深い慰労を送ります上、早い被害復帰のために我々、韓国仏教文化事業団長も積極的に支援を惜しげなく送ります。

カムサハムニダ。(ありがとうございます)

佛紀2555(2011)年9月17日　韓国仏教文化事業団長　智玄


〈祝辞〉

原文

霊場会開創三十周年記念大法要の御礼

日時／平成二十三年九月十七日（土）
場所／二十二番札所　多陀寺（島根県浜田市）

この度は霊場会開創三十周年記念大法要に、ご遠路より多数のお参りをいただき誠にありがとうございました。お陰様で無事に大法要を勤めることが出来まして、誠にありがたく思っております。

台風接近。降水確率九〇％。朝六時の時点では雨、雨、雨。悲しい雨！

誰もが「せっかくの大法要が雨か～！」と残念がられた事でしょう。私自身も起床と共に意気消沈しました。しかし観音様のご利益でしょう、法要が始まる頃には雨は上がり、逆に暑い日差しが射し出しました。そして法要が終わるまで、奇跡的に雨は降りませんでした。

午前中の霊場会の法要に続いて、午後からも近隣のご寺院にご出仕をいただき、大般若転読法要を勤めました。法要の終わりに、特別開扉した本尊十一面観音様のお扉を閉め、無事に法要を成満した途端「ザ～」と大粒の雨が降り出しました。正に法要の終わりを待っていたかの様な雨。甘露の法雨です。そして誰彼なく「ここまで天気がもったのも本尊様のお力やな～。ありがたい！」との言葉が自然と出たのは言うまでもありません。

後日談では、法要の時間帯に雨が降っていなかったのは、当山の周りだけだった様で、何とも不思議なありがたい一日でした。正に観音様のご利益を目の当たりにした一日であり、あらためてご本尊様の霊験あらたかさを確信いたしました。

この大法要の成満はmご本尊をはじめ、数多の観音様のご利益と、多くの皆様のお力添えの賜物であり、只々感謝の一言でございます。

当日は何かと至らぬ点があったものと存じますが、何卒ご容赦をいただきますようお願い申し上げます。そしてこの度の大法要成満を、当山一同大きな喜びとして、更なる寺門興隆に繋げて参りたいと思っております。当山は霊場会一の交通の難所ですが、皆様には引き続きお参りをいただいますようお待ち申し上げます。

この度は誠にありがとうございました。　合掌

観音様から「生きる力をいただく旅」、それが観音巡拝の旅。